みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

シルクロードの織機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍, 柳, 悦州 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5212

地機【UGC-3】

調査年月日　：1999年7月5日
調査地　：トルホル（Torhol）村
民族名　：トルクメン（Turkmen）

型式　：地機
材質　：木，鉄（前部経糸保持棒）
概寸　：全長450㎝，全幅120㎝，全高45㎝
経糸保持方式　：固定式
整経方式　：輪状整経式
開口具設置方式：綜絖固定・開口保持板可動式

構成部品

経糸保持具　：前部経糸保持棒（杭）
<図UGC-3-a-1>
後部経糸保持棒（横木）
<図UGC-3-a-2>
経糸間接保持具：後部経糸保持棒繋留用杭
（２本）<図UGC-3-a-3>
後部経糸保持棒繋留用紐
<図UGC-3-a-4>
開口具　：輪状綜絖<図UGC-3-a-5>
開口保持板<図UGC-3-a-6>
綜絖固定具　：（２本）<図UGC-3-a-7>
緯入具　：棒状緯入具<図UGC-3-a-8>
緯打具　：刀状緯打具<図UGC-3-a-9>
開口部記憶紐：<図UGC-3-a-10>
経糸整列具　：<図UGC-3-a-11>
その他　：クッション<図UGC-3-a-12>

製織中の織物

織技法　：経縞織
地組織　：経畝組織
素材　：羊毛
用途　：カーペット

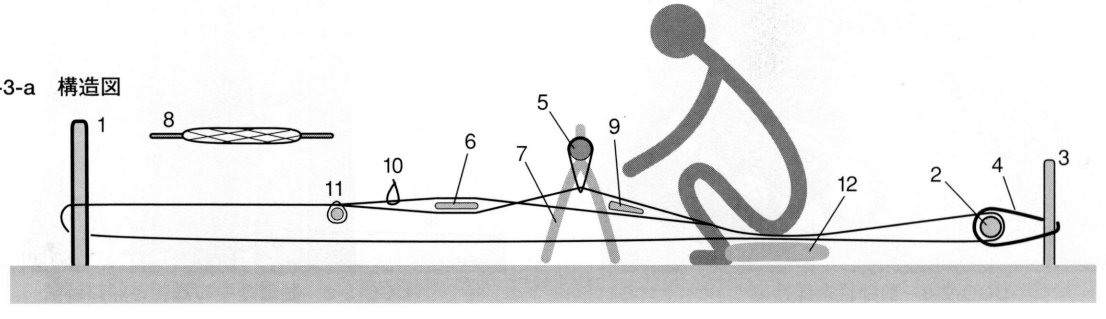
経糸全長　：800㎝（全周）
織幅　：35㎝

織り手　：女性１人

調査メモ

機織りは、屋外の林の中でおこなわれていた。この地機の後部経糸保持棒は、両端が２本の繋留用の杭を介して紐で繋がれており、紐で引き締めることによって、経糸の張力が調整されている。輪状綜絖の綜絖糸がかけられている綜絖棒の両端には、穴があけられており、逆Ｙ字形の綜絖固定具が挿し込まれている。経糸整列具の棒は経糸の下面に渡されており、経糸は棒にらせん状に巻きつけられた紐で締め付けて固定されている。開口具の設置方式は、綜絖固定・開口保持板可動式で、経糸の開口操作では、開口保持板を寝かせた状態で遠ざけることによって経糸が逆開口し、開口保持板を手前に引き寄せて起こすことによって経糸が開口する。ただし、逆開口をおこなう場合には、経糸がからみ合って口が開きにくいことから、経糸を手のひらで押すという補助的な操作を必要としている。この地機では、黒と白の経糸を使って経縞が織られ、太い縞の部分は経畝状の模様があらわされていた。織り始めの段階では、織り手は後部経糸保持棒を前にして座って機織りをしていたが、織り進むにしたがって、開口具などの部品を前に移動させるとともに自らも移動し、織った布の上に座って機織りが続けられた。なお、緯入具は棒状、緯打具は刀状を呈している。

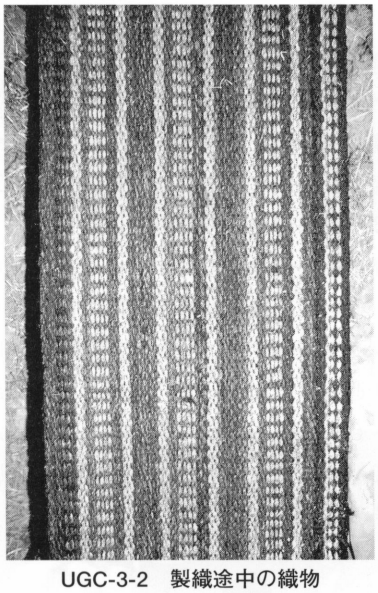
UGC-3-a　構造図



UGC-3-1　全景

UGC-3-3　緯糸の打ち込み

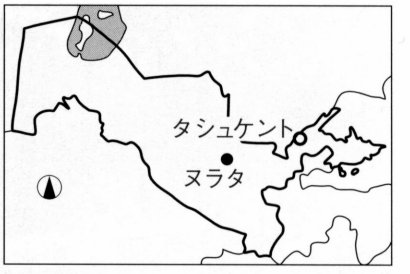
UGC-3-4　開口保持板による開口



UGC-3-2　製織途中の織物

UGC-3-5　固定綜絖による逆開口

地機【UGC-4】



調査年月日　：1999年7月12日
調査地　：ヌラタ（Nurata）市
民族名　：タジク（Tadzhiki）

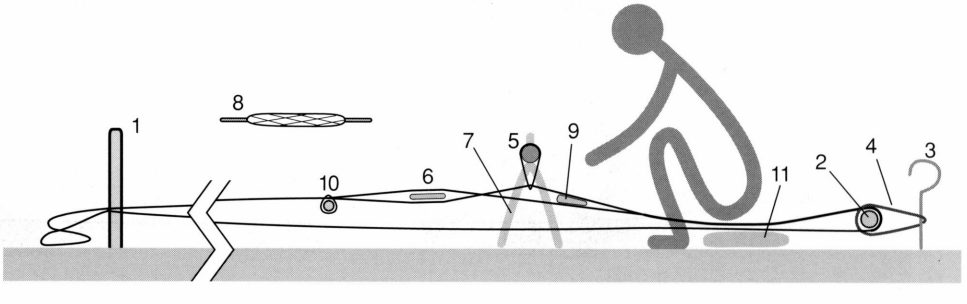
型式　：地機
材質　：木
鉄（前部経糸保持棒，
後部経糸保持棒繋留用杭）
概寸　：全長1260㎝，全幅106㎝，全高48㎝
経糸保持方式　：固定式
整経方式　：輪状整経式
開口具設置方式：綜絖固定・開口保持板可動式

構成部品
経糸保持具　：前部経糸保持棒（杭）
<図UGC-4-a-1>
後部経糸保持棒（横木）
<図UGC-4-a-2>
経糸間接保持具：後部経糸保持棒繋留用杭
（２本）<図UGC-4-a-3>
後部経糸保持棒繋留用紐
<図UGC-4-a-4>
開口具　：輪状綜絖<図UGC-4-a-5>
開口保持板<図UGC-4-a-6>
綜絖固定具　：（２本）<図UGC-4-a-7>
緯入具　：棒状緯入具<図UGC-4-a-8>
緯打具　：刀状緯打具<図UGC-4-a-9>
経糸整列具　：<図UGC-4-a-10>
その他　：クッション<図UGC-4-a-11>

製織中の織物
織技法　：経縞織
地組織　：経畝組織
素材　：羊毛
用途　：カーペット
経糸全長　：3300㎝（全周）
織幅　：34㎝

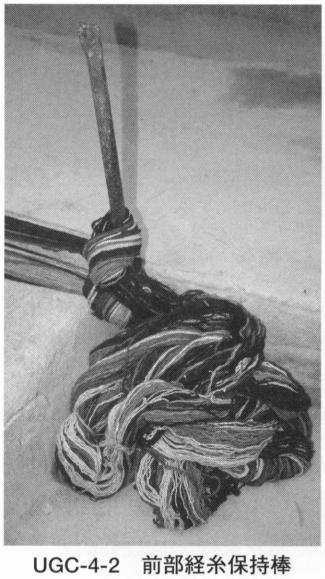
織り手　：女性１人

調査メモ
機織りは住居に隣接するテラスでおこなわれていた。この地機では、前部経糸保持棒の杭に経糸がくくりつけられているが、あまりの経糸は、その先に束ねた状態で置かれている。後部経糸保持棒は、両端が２本の繋留用の杭を介して紐で繋がれており、紐を引き締めることによって、経糸の張力が調整されている。輪状綜絖の綜絖棒の両端には、穴があけられており、逆Ｙ字形の綜絖固定具が挿し込まれている。経糸整列具の棒は経糸の下面に渡されており、経糸は棒にらせん状に巻きつけた紐で締め付けて固定されている。この地機では、さまざまな色の経糸を使って経縞が織られ、細い縞の部分では、上糸と下糸に異なった色糸を使用して、点線状の模様があらわされていた。経糸の開口操作では、開口保持板を寝かせた状態で遠ざけることによって経糸が逆開口し、開口保持板を手前に引き寄せて起こすことによって経糸が開口する。ただし、逆開口をおこなう場合には、経糸がからみ合って口が開きにくいことから、経糸を手のひらで押すという補助的な操作を必要としている。織り始めの段階では、織り手は後部経糸保持棒を前にして座って機織りをしていたが、織り進むにしたがって、開口具などの部品を前に移動させるとともに自らも移動し、織った布の上に座って機織りが続けられた。なお、緯入具は棒状、緯打具は刀状を呈している。

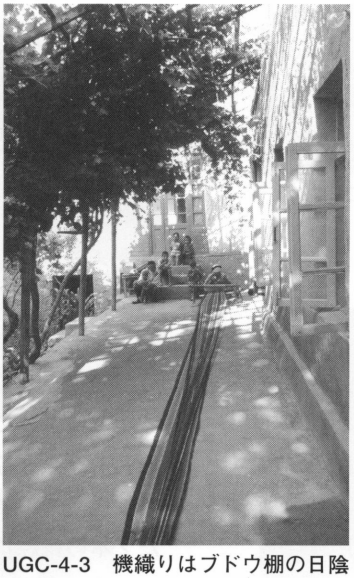


UGC-4-a　構造図

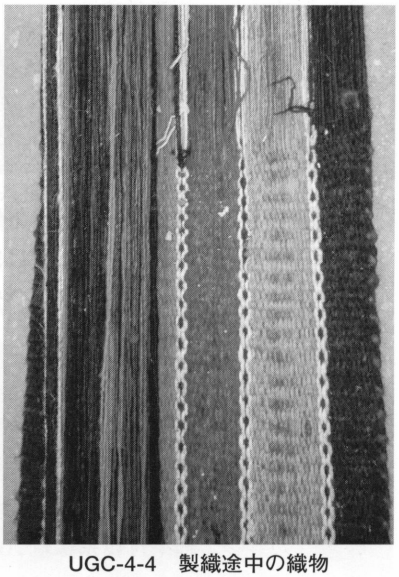
UGC-4-1　全景



UGC-4-2　前部経糸保持棒



UGC-4-3　機織りはブドウ棚の日陰でおこなわれている

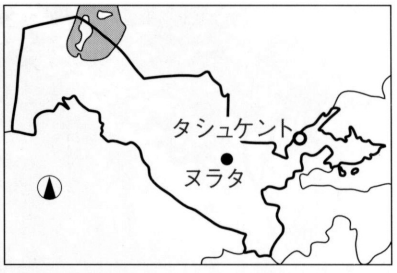


UGC-4-4　製織途中の織物

UGC-4-5　経糸の開口

UGC-4-6　経糸の逆開口

地機【UGC-5】



調査年月日　：1999年7月12日
調査地　：ヌラタ（Nurata）市
民族名　：タジク（Tadzhiki）

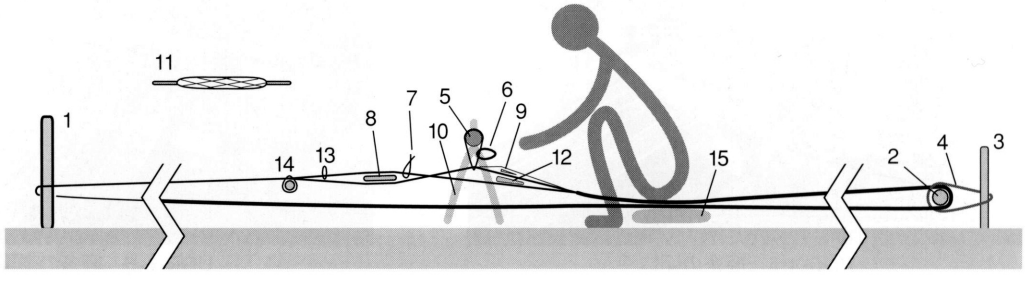
型式　：地機
材質　：木
概寸　：全長1550㎝，全幅100㎝，全高50㎝
経糸保持方式　：固定式
整経方式　：輪状整経式
開口具設置方式：地組織用開口具
　- 綜絖固定・開口保持板可動式
　浮組織用開口具
　- 綜絖可動式

構成部品
経糸保持具　：前部経糸保持棒（杭）
　<図UGC-5-a-1>
　後部経糸保持棒（横木）
　<図UGC-5-a-2>
経糸間接保持具：後部経糸保持棒繋留用杭
　（２本）<図UGC-5-a-3>
　後部経糸保持棒繋留用紐
　<図UGC-5-a-4>
開口具　：輪状綜絖（地綜絖）
　<図UGC-5-a-5>
　輪状綜絖付属糸綜絖（紋綜絖）
　（２本）<図UGC-5-a-6>
　経糸付属糸綜絖（紋綜絖）
　（２本）<図UGC-5-a-7>
　開口保持板<図UGC-5-a-8>
開口補助具　：浮織用経糸すくい板
　<図UGC-5-a-9>
綜絖固定具　：（２本）<図UGC-5-a-10>
緯入具　：棒状緯入具<図UGC-5-a-11>
緯打具　：刀状緯打具<図UGC-5-a-12>
開口部記憶紐：<図UGC-5-a-13>
経糸整列具　：<図UGC-5-a-14>
その他　：クッション<図UGC-5-a-15>

製織中の織物
織技法　：経縞織と経糸浮織（昼夜織）の併用
地組織　：経畝組織
素材　：羊毛
用途　：カーペット
経糸全長　：3000㎝（全周）
織幅　：31㎝

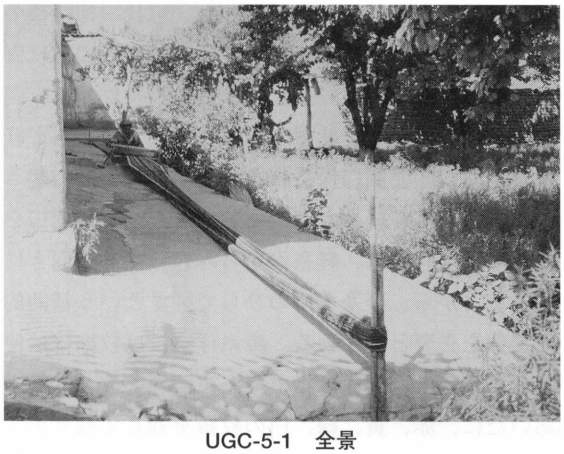
織り手　：女性１人

調査メモ
機織りは、住居に隣接したテラスでおこなわれていた。この地機の後部経糸保持棒は、両端が２本の繋留用の杭を介して紐で繋がれており、紐を引き締めることによって、経糸の張力が調整されている。開口具のうち、綜絖には輪状綜絖のほかに、輪状綜絖の綜絖糸に付属した２本の糸綜絖と、経糸に付属した２本の糸綜絖がある。輪状綜絖の綜絖棒の両端には、穴があけられており、逆Ｙ字形の綜絖固定具が挿し込まれている。輪状綜絖は地組織用の綜絖で、糸綜絖は経糸浮織（昼夜織）用の紋綜絖として機能している。輪状綜絖は固定式であり、経糸の開口操作では、開口保持板を寝かせた状態で遠ざけることによって経糸が逆開口し、開口保持板を手前に引き寄せて起こすことによって経糸が開口する。ただし、

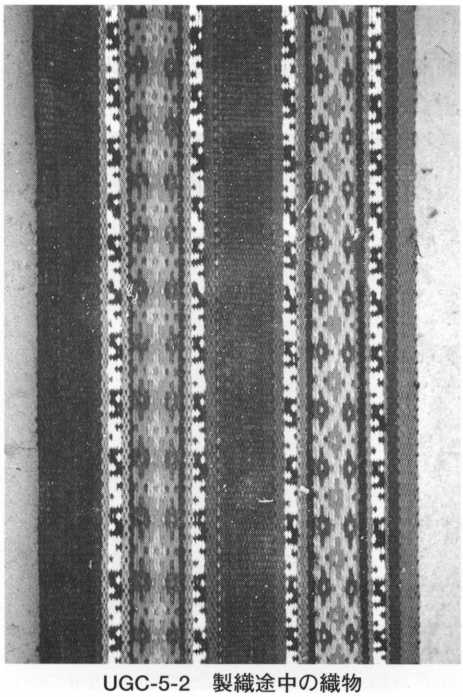


UGC-5-a　構造図

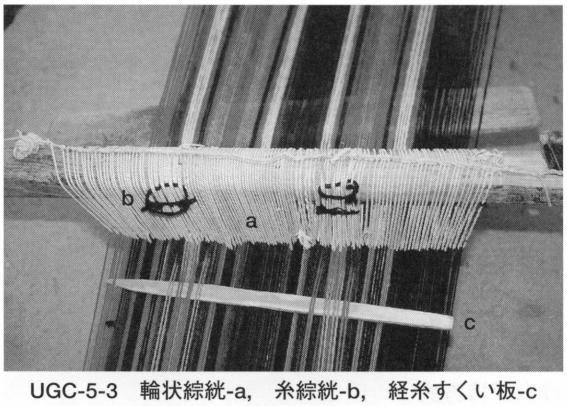
逆開口をおこなう場合には、経糸がからみ合って口が開きにくいことから、経糸を手のひらで押すという補助的な操作を必要としている。輪状綜絖の綜絖糸に付属した糸綜絖は手前に引くことによって、また、経糸に付属した糸綜絖は上に引き上げることによって、浮織に関係する経糸が引き上げられ、引き上げられた経糸のあいだには、開口操作を補助するために経糸すくい板が挿入される。経糸整列具の棒は経糸の下面に渡されており、経糸は棒にらせん状に巻きつけた紐で締め付けて固定されている。織り始めの段階では、織り手は後部経糸保持棒を前にして座って機織りをするが、織り進むにしたがって、開口具などの部品を前に移動させるとともに自らも移動し、織った布の上に座って機織り作業が続けていた。緯入具は棒状、緯打具と経糸すくい板は刀状を呈している。



UGC-5-1　全景



UGC-5-2　製織途中の織物



UGC-5-3　輪状綜絖-a,　糸綜絖-b,　経糸すくい板-c

UGC-5-4　糸綜絖で引き上げた経糸のあいだに
経糸すくい板を挿入する

UGC-5-5　経糸付属糸綜絖を引き上げる

UGC-5-6　緯打具による緯糸の打ち込み